

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E112J020	美学・美術史概論 (Seminar in Aesthetics and Art History)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	3	教育学部 平成31年度以前入学生 用			氏名 田中 修二 E-mail tnkshj@oita-u.ac.jp 内線 7596											
授業の概要	さまざまな時代や地域の造形表現の多様さを紹介しつつ、「美」や「美術」とはなにかを探るとともに、大分の美術の歴史について美術館見学・文化財等の実地見学等もまじえて考察する。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	人間にとっての「美」や「美しさ」の大切さを伝えることができる。																
目標2	美術の歴史の流れを紹介できる。																
目標3	大分の美術とその歴史について説明できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	はじめに 美術史と美学																
2	造形表現の種類と範囲																
3	美術作品を見るということ(1) 古代日本の仏像を例に																
4	美術作品を見るということ(2) 西洋近代の作品を例に																
5	「美術」の始まりとその流れ(1) 先史時代の作品を例に																
6	「美術」の始まりとその流れ(2) 西洋の美術																
7	「美術」の始まりとその流れ(3) 日本の美術																
8	「美術」の始まりとその流れ(4) アジアの美術																
9	「美」という概念の多様性と歴史性 「近代」の視点から																
10	美術と地域性																
11	大分の美術(1) 先史時代・古代																
12	大分の美術(2) 中世																
13	大分の美術(3) 近世																
14	大分の美術(4) 近代																
15	大分の美術(5) 現代																
ラ ブ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	グループでの話し合い。展覧会見学・街歩き等の教室外での活動。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等をもとに必要に応じて予習する(15h)。															
	事後学修	授業に関心を持った事柄について、各自でさらに調査を進め、知識を深めていく(15h)。															
教科書	授業中に配布するプリントを使用する。																
参考書	授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	口頭発表・小レポート等	50%															
	期末試験、またはレポート	50%															
注意事項	授業では、ある作品についての「ディスクリプション」(作品の形や構図・色彩などについての文章による詳細な記述)や、特定の作家や作品について事前に調べた上での発表などを行ってもらうことがある。休日等に美術館等への見学を行うことがある。																
備考																	
リンク	URL																